

和名：アフリカマイマイ  
学名：*Achatina fulica* (Ferussac)  
英名：giant African snail



図 アフリカマイマイ

### 分布

中央アフリカ、南アジア、東アジア、大洋州、北アメリカ、ハワイ、グアム島（我が国では奄美群島以南の南西諸島、小笠原諸島）

### 寄主植物

アブラナ科、ウリ科、マメ科の野菜類などの植物の生茎葉及び生果実を広く食害

### 形態

螺層は右巻きで成長に伴いその数が増加し、成貝では6～7段のうずまき状となる。成貝は径4～5cm、殻高約10cmに達し、重さは100g前後。性成熟には個体差が著しいが、4.5cm以上が成貝の目安とされている。一方、ふ化直後の幼貝は殻高5～6mm、殻は半透明の乳白色で、成長に伴って殻は硬く、厚くなり、薄茶色になる。殻には生長線に沿って淡黄色波状の縞模様が認められる。卵は約5.5×4.6mmの楕円形、乳白色で表面は粗く堅い。

### 生態

本種は雌雄同体であるが2個体間で異体交尾し、40日ほどで産卵を始める。卵は約1週間でふ化する。奄美群島においては、春秋の2回の産卵が見られる。成貝は落葉下や深さ3～5cmの土中に、1回当たり100～400個まとめて産卵する。摂食活動は主に夜間行うが降雨日や曇天下では昼間でも摂食する。本種は日陰の多湿な場所に好んで生息する。乾燥すると殻口をゼラチン状の物質で被膜して活動を停止し、降雨等によって湿潤になると直ちに活動を始める。低温に弱く冬季の活動は鈍化する。

### 被害

被害は葉、茎、果実の摂食、なめ痕によっておこる。奄美、小笠原では樹上のパパイヤや生果実で被害が多数観察されている。また、本種は他の陸貝同様、広東住血線虫 (*Angiostrongylus cantonensis*) の中間宿主として知られており、衛生害虫でもある。